

6/1 – Lecture 2.

「フランスにおけるノワゼット・ローズ・プロジェクト」

講師：ベルナール・マンド

ヴァル・ド・マルヌ県ライ・レ・ローズ・バラ園友の会会長

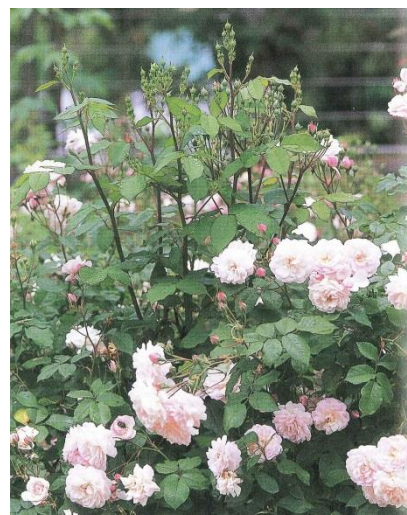
ジュール・グラヴローにより創設された、ヴァル・ド・マルヌ県ライ・レ・ローズ・バラ園はパリ市から南 10km に位置し、フランスで最大の歴史あるバラ園である。ノワゼットローズ（下記参照）には特別な関心が寄せられている。ノワゼットローズは初期においては、アメリカ人とフランス人により並行して開発された。1810 年から 1830 年代には、つるバラの性質を持ち、返り咲きをする最初のバラのグループを代表するバラとなった。70 種類のノワゼットローズコレクションの中から、そのグループの保存の中心となるコレクションを確立した。比較のため書籍、雑誌やカタログなどの中から、たくさんの古い文献や写真を持ち寄った。莫大な数の写真が植物学的・形態学的な特徴を解明してよりわかりやすい記載と同定（分類上の所属や種名を決定すること）を行うために集められ、私たちの標本（バラのコレクション）の大部分が分類の指標に合致した。

アンジェの GDO リサーチチーム (INRA、ACO、アンジェ大学) との協働で、表現型と遺伝型のデータを利用することで、遺伝子構造が導きだされた。この講義では、比較研究（系統図の再構築あるいはグローバル組織データ）について発表し、検討する。この分析は世界中のバラ園の協力により、他の系統にも広げられ、完成されるだろう。

（参考事項）

ノワゼットは最初、アメリカで作出された。中国のオールドブラッシュにロサ・モスカータを交雑させて作られたシャンプニーズ・ピンク・クラスターと呼ばれる半つる性の房状に咲くバラのこと。これがフランスに渡ってブラッシュノワゼットという名前で確立され、その後のノワゼットへと繋がっている。

中国バラの四季咲き性とモスカータの香りを併せ持つ素晴らしい品種群となっている。



写真出所) 野村和子(著)『オールド・ローズ花図譜』小学館